

平成28年度 自己評価・学校関係者評価 報告書(学習支援部)

岐阜県立岐阜本巣特別支援学校

学校番号

105

自己評価

学校教育目標	・夢の実現に向けて、生き生きと自分を表現できる児童生徒を育てる ・心のふれあいを大切に、自他共に尊重できる児童生徒を育てる
評価する領域・分野	「教育活動・学習指導」「研修(資質向上の取組)」「保護者、地域のとの連携」「教育環境整備」
現状及びアンケートの結果分析等	・行事等の体験的な活動では、児童生徒が事前学習から意欲的に取り組める授業計画を進めることが望まれる。 ・保護者や地域の方々が、授業や学習の成果が見て分かる発表や作品展示の工夫を進める。 ・児童生徒、及び職員ともにより授業や生活支援等でのICTの活用を推進する。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 学習支援 ・教科等部会、授業実践交流会等を活用し、学習効果を高める指導形態、指導内容の情報交換をする。 ・理学療法士、作業療法士、言語聴覚訓練士との連携に基づいた授業づくりを進める。 (2) 文化活動 ・一人一人の障がいの程度や成長・発達・学習の状況に応じて、もてる力を発揮できる学校祭の運営を行う。 ・児童生徒の読書意欲を喚起する図書室運営を行う。 ・サマースクールや芸術鑑賞会等において、児童生徒が心揺さぶられ、自ら発信しようとする体験の機会を設定する。 (3) 情報支援 ・コンピューターや通信ネットワーク等(ICT)の情報手段に慣れ親しむ環境を整え、児童生徒の学習意欲と指導効果を高める。 ・ICTを活用した授業実践をまとめて紹介する。
重点目標を達成するための校内組織体制	・分掌内を「学習支援」「文化活動」「情報支援」の3係に編成、それぞれの係に職員の特性を生かして小学部、中学部、高等部職員を配置する。
目標の達成に必要な具体的取組	(1) 学習支援 ・テーマを設定した授業実践交流会の開催。 ・特別非常勤講師を活用した授業支援と外部機関との連携。 (2) 文化的活動 ・芸術鑑賞会(全学部)とサマースクール(小中学部)の企画運営 ・ゆめフェスタ(学校祭)実行委員会の補佐と連携 (3) 情報支援 ・コンピューターや通信ネットワーク等(ICT)の情報手段に慣れ親しむ環境整備の推進
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・授業実践交流会等により、授業に生かせるような情報交換ができたか ・外部講師との連携に基づいた、児童生徒の興味・関心を引くような授業づくりができたか ・児童生徒のもてる力を発揮できるようなゆめフェスタができたか ・授業においてICTや視聴覚機器の有効利用・活用ができたか
取組状況・実践内容等	(具体的に) ・「教材教具の工夫」とテーマを設定した授業実践交流会で他学部との交流会の実施。 ・登校日にサマースクール(小中学部)を児童生徒の状況、興味関心に基づき5つの活動内容から選択して参加する方法で実施。 ・弦楽器アンサンブルを招いて芸術鑑賞会の実施 ・しらゆり相談(理学療法士、作業療法士、言語聴覚訓練士)の実施。 ・ゆめフェスタ(学校祭)の実施。

	・図書室の本の購入に関して児童生徒向けに購入希望図書調査を実施。研修部と連携し、職員図書の購入。 ・職員による「子ども読書の日」高等部図書委員会と連携しての「読み聞かせ会」の実施。 ・教務部、研修部の協力連携を得ての情報機器活用の活用促進。
評価の視点	評価
① 授業実践交流会等による情報交換、外部講師との連携に基づいた授業づくりができたか。	A ☒ B C D
② 充実した文化的行事の運営ができたか。	A ☒ B C D
③ ICT の情報手段に慣れ親しむ教育環境の整備ができたか。	A ☒ B C D
成果・課題	総合評価
○学部を超えてテーマを基に授業実践に関する情報交換ができた。 ○芸術鑑賞会では当初の計画団体の都合により出演者の変更があったが、本校への理解が深く心揺さぶられるのと同時に温かみのある会を実施することができた。 ○ゆめフェスタでは各学部、各分掌と連携し、児童生徒のもてる力を発揮できるような文化的行事として計画実施することができた。また、前年度からの引き継ぎや来年度開催される10周年記念事業を見据えながら実施に向けて職員の協力を得ることができた。 ○ICT や情報・視聴覚機器の活用が多くなされ、教務部や研修部との連携から児童生徒も iPad やパソコン等授業で活用できる環境整備を推進することができた。 ▲iPad の台数が増えたことにより、ICT を活用した授業実践や学習活動の事例交流・紹介や推進を図るとともに、物品の管理運営の改善を進める必要がある。 ▲時間割・日課との兼ね合いもあり、外部講師への依頼が難しい等、活用する学級・教科等が限られている。	A ☒ B C D
来年度に向けての改善方策案	・ICT を活用した授業実践や学習活動の事例交流・紹介や推進を図るとともに、活発な活用に向けた物品の管理運営の改善を進める。 ・ICT の有効活用、利用を学校生活全体に広げていく。 ・外部機関と協議しながら、外部講師の活用や実践を共有する方法を工夫し、利用を推進していく。 ・31年度以降の芸術鑑賞会について計画を立てていく。 ・各学部、各分掌と連携し、事前の取り組みから児童生徒のもてる力を発揮できるよう文化的行事を計画・実施していく。

学校関係者評価（平成30年2月1日実施）

意見・要望・評価等
・ICT を活用した学習活動の推進に期待しています。